

ふれあいコンサート

「よし子さん、『*ふれあいコンサート』に行かない？」

「ふれあいコンサート？」

「うん、来週の土曜日、呉市民会館であるの。よし子さん、何か用事が入ってる？」

「土曜日は何にも予定は入ってないわよ。」

「じゃあ、一緒に行こうよ。午後一時からだから、私が迎えに行くわね。入場料は無料よ。」

私は、さゆりさんにさそわれて、「ふれあいコンサート」に行くことにした。でも、当日までは、どんな内容のコンサートなのかは、何も知らなかった。

当日、さゆりさんと一緒に、呉市民会館に行った。一階の席は、バンドナを首に巻いた人たちでほとんどうまっていた。わたしとさゆりさんは、二階の一番前の席に座った。

「ねえ、さゆりさん。今ごろ聞いておかしいんだけど、今日は、だれのコンサートなの？」

「障害のある人たちによるコンサートよ。」

「えっ？」

いよいよコンサートが始まった。エレキギターやドラムなどの楽器の音や、元気な歌声が響いてきた。ステージのそでで、手話をやっている人がいた。スクリーンには、今、話している人の話が、ものすごい速さで、文字に書かれて、映し出されていた。

ステージでは、車いすに乗った人も一緒に、たくさんの人が楽しそうに歌っていた。ステージの上をとびはねながら何度も往復する人。マイクが回ってくると、大きな声でいっしょうけんめいに歌う人。車いすに座って手をたたいている人。いろんな人たちが、参加している。みんなとても楽しそうだ。ふと、私は、さゆりさんを見た。さゆりさんも、とびっきりの笑顔で、手拍子をしていた。わたしも、いっしょに手拍子をした。

プログラムは、どんどん進んでいく。

第二部は、小規模作業所や障害者施設の紹介だった。スクリーンに花を育てている様子やクッキーを焼いている様子などが映し出された。そして、その様子を、説明してくれた。

「これは、……。そして、……。」

言葉が、はっきりしないので、私は、何を言っているのかよく分からなかった。ふと、私は、さゆりさんを見た。さゆりさんは、うなずきながら聞いている。

「さゆりさん、何を言ってるのか分かるの？」
と、私は小声で聞いた。

「うん、何を言いたいのか集中して聞いてごらんよ。分かるから。」
「そう？」

私は、不思議だった。

次は、障害者施設の男の人が作った詩の紹介だった。ステージのそででは、いろんな人が交代で、ずっと手話をされていた。はっきりした言葉ではなかったけれど、さゆりさんに言われたように、私も何を言いたいかと集中して聞こうと思った。すると、話の内容が分かってきた。

(すてきな詩だなあ。)

なんだか、心がうきうきしてきた。

「いよいよ最後の曲です。」

「さゆりさん、もう、終わり？」

「そうよ。私、この『ラ・ラ・ラ』っていう曲、大好きなの。」

さゆりさんが大好きだという『ラ・ラ・ラ』が始まった。観客もみんな立ち上がって、ステージの手話を真似て、歌いながら手話をしている。観客席では、ボランティアの学生さんが、バンドナを首に巻いて、手話をしながら歌っていた。私も、近くの学生さんを見ながら、手話をした。よく見ると小学生もたくさん来ていて、一緒に歌っていた。

私は、この歌は初めてだったけれど、スクリーンの歌詞を見ながら、大きな声で歌っていた。

私は、みんなと一つになれたような気がした。

♪ たった一人の 笑顔だけ
じゃ、とつてもさみしすぎる
一人一人の笑顔を求めて、夏
の風と共に……
歌と共に歩き出そう
生きる喜び今を ラ・ラ・ラ

* 「ふれあいコンサート」・・・呉市では、毎年十二月の障害者週間に、ふれあいコンサート実行委員会主催でふれあいコンサートが開催されている。